

令和4年10月4日

発 言 者	発 言 要 旨
森谷委員	8月3日からの大雨による農業用機械の被害状況はどうか。
農政企画課長	10月3日時点で、米沢市、朝日町、川西町及び飯豊町にて、コンバインや穀物乾燥機等の浸水被害が合計429件、被害額は3億2,300万円と報告されており、ほとんどが川西町及び飯豊町の被害である。
森谷委員	これら被害に対する県の支援状況はどうか。
農政企画課長	<p>県としては、市町村と協調しながら8月18日に緊急対策として、農業用機械の修理や再取得に要する経費について支援している。</p> <p>支援内容としては、農機具共済（以下「共済」という。）に加入している場合には、共済から平均して必要経費の9割程度の補償を受けられることを考慮し、農業用機械の再取得等価格から、共済金相当額を控除した自己負担額に対して、県が3分の1、市町村が6分の1以上補助することにより、自己負担額の2分の1以上を支援している。なお、補助限度額を農業用機械の規模に応じて設定しており、大型機械の場合には1台当たり60万円、中型は16万7,000円、小型は1万円としている。</p>
森谷委員	今回の被害農業者の共済への加入状況はどうか。
農政企画課長	現在、市町村で調査中である。
森谷委員	県の支援に関して、共済加入の有無によって支援内容が異なるのか。
農政企画課長	共済加入の有無を問わず、支援内容は同じである。
森谷委員	令和2年7月豪雨の際には、全国的に農業用機械の被害が発生したため、国からの支援があったが、今回の大雨に関しては、国の支援はない。農業用機械の支援に係る国の動向はどうか。
農政企画課長	農林水産省に相談したところ、今回の大雨による農業用機械の被害規模が令和2年7月豪雨の10分の1にも満たない状況であることから、国としては支援対策を出す状況には至っていないという回答があった。
森谷委員	このような災害に備えて、共済への加入が必要と考える。県の補助事業等において、共済への加入を補助要件等に設定している事案はあるのか。
農業経営・所得向上推進課長	国及び県等の補助事業等の実施と併せて、共済への加入について指導している。
森谷委員	浸水した樹園地に対する支援状況はどうか。

発 言 者	発 言 要 旨
園芸大国推進課長	<p>国の果樹産地再生支援対策により、浸水被害のあった樹園地の洗浄と防除等に対する支援として10a当たり7万1,000円、改植に対する支援としては、今までは異なる品種又は樹種を改植する場合のみが支援対象となっていたが、今回被災した樹園地における改植については、同じ品種又は樹種でも支援対象となり、さくらんぼ又はりんごであれば10a当たり17万円、これに加えて未収益期間の養成経費として、10a当たり22万円の支援が行われる。</p> <p>こちらの事業については県を經由しないため、窓口となる県青果物生産出荷安定基金協会の方で事業のQ&Aを作成しており、10月中旬頃から募集を行うと聞いている。</p>
森谷委員	<p>今回の補正予算に計上されている肥料価格高騰支援の事業概要はどうか。</p>
農業技術環境課長	<p>県としてはできるだけ事業スキームをシンプルにしたいと考え、化学肥料の低減に取り組む農業者への肥料価格高騰分に対する国の支援事業に上乘せして助成をする形とした。</p> <p>令和4年6月から5年5月までに購入した肥料の全てが対象となり、支払い方法としては、農業者に十分な支援が行き届くように、秋肥料と春肥料に分けて支払うこととしている。支払い時期の目途としては、秋肥料については、12月までに集約したものが早くて来年1月頃の支払い、春肥料については、2月頃までに集約したものが4月頃の支払いになる。</p>
森谷委員	<p>現場の農業者への周知状況はどうか。</p>
農業技術環境課長	<p>国と連携しながら、説明会を複数回開催し、実際の事務を担当する市町村、JA等に対して説明を行い、農業者への周知を図っている。また、事業のQ&Aの変更など随時情報共有を行いながら、円滑な運営を図っていききたい。</p>
森谷委員	<p>東北農林専門職大学（仮称）（以下「専門職大学」という。）の開学に向けて、県立農林大学校と併設している利点を活かし、双方の教育の充実に向けた取り組みが必要と考えるがどうか。</p>
専門職大学整備推進課長	<p>併設の利点としては、専門職大学の教員による農林大学校での専門的な講義、ICT機器等の双方での活用、農林大学校で積み重ねてきた実習のノウハウの共有及び教員同士の合同研修などが考えられる。</p> <p>また、同じ志を持っている学生同士の交流や、運営面においても同系統の学校であることによる効率化を図っていききたい。2つの学校が併設しているという利点を活かした相乗効果を発揮し、本県の農林業人材育成基盤を厚みのあるものにしていけるように努めていきたい。</p>
森谷委員	<p>入学者の選抜にあたって、県内学校の卒業者に対する優先枠はあるのか。</p>
専門職大学整備推進課長	<p>入学者の選抜における指定校推薦については、県内の農業関係の高校などを中心にこちらで指定校を決定したいと考えている。また、総合型選抜いわゆるAO入試についても、本県も含めた東北地域の優先枠を設けることを検討している。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
木村委員	<p>8月3日からの大雨によって農業用施設等に対して多くの被害が発生したが、これら被害は予め想定できたものなのか。</p>
農村防災・災害 対策主幹	<p>8月3日からの大雨は県内で初めて大雨特別警報が発令されるなど、線状降水帯が置賜地域に長時間滞留し、川西町及び飯豊町など特定の地域に豪雨が集中し、中山間地域や河川沿いの農業用施設等に甚大な被害が発生した。これらの災害は未曾有の豪雨がもたらしたものと捉えている。</p> <p>土地改良区では、日常の点検を行ってきたが、今回の白川幹線用水路のような大規模な土砂崩壊は予想できるものではなかったと考えている。</p> <p>しかしながら、今回、このような災害が発生したため、今後はより注視しながら必要な監視を行っていきたい。</p>
木村委員	<p>今回の大雨被害を踏まえ、想定外の災害への備えとして、土地改良区等と連携しながら、農業用施設の危険箇所の把握と対策を行っていくべきと考えるがどうか。</p>
農村防災・災害 対策主幹	<p>近年災害が頻発し、リスクが年々高まってきていることから、農業農村整備分野で把握している危険箇所だけではなく、森林ノミクス推進課が把握している地すべり危険箇所や県土整備部所管の土砂災害警戒区域等の情報を活用するなど、関係機関と連携しながら、災害の未然防止に努めていきたい。</p>
木村委員	<p>さくらんぼ&フルーツPR協議会（仮称）の設立の狙いはどうか。</p>
農政企画課長	<p>来年度に「やまがた紅王」の本格デビュー、令和7年には「さくらんぼ栽培150周年」を迎えることから、この期間を県産フルーツの集中的なPR期間と捉え、イベントやプロモーションなどを重点的に展開していきたいと考えている。</p> <p>そのために、様々なフルーツを個別にPRするのではなく統一した形で情報発信を行い、また、消費地で購入してもらうだけではなく本県への誘客を図り、「さくらんぼ栽培150周年」に向けた県全体の機運醸成に向けて、農業、観光関係団体及び県による新たな組織を立ち上げることとした。</p>
木村委員	<p>「さくらんぼ栽培150周年」に向けた機運醸成に向けて、どのような対応を考えているのか。</p>
農政企画課長	<p>様々な事業体とのコラボなど他県の事例を研究しながら、具体的な対応についてはこれから検討していきたい。</p>
木村委員	<p>他県では民間事業者が施設管理を行うことによって賑わいを創出している好事例がある。さくらんぼをはじめとする県産フルーツの魅力発信に向けては、民間の活力を生かした取組みが必要と考えるがどうか。</p>
農政企画課長	<p>有識者からも都市公園を活用した官民連携の取組みについて話を聞いており、指定管理制度やPFI方式などの官民連携の事業スキームについて、積極的に検討していきたい。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
木村委員	さくらんぼの通年販売に向けて、加工用さくらんぼの品種開発の推進が必要と考えるがどうか。
スマート農業推進主幹	園芸農業研究所では、生食用を中心にさくらんぼ育種の研究を進めており、加工用については、生食用の育種を進める中で、加工用の母材が出てきた場合には、検討していきたい。
木村委員	県産フルーツの発展には、先人たちの挑戦による「チャレンジ・スピリッツ・ストーリー」へ焦点を当てた取り組みが必要とのことであるが、今後の「果樹王国やまがた」の展開に向けた所感はどうか。
農林水産部長	コロナ禍で傷んだ県民、国民の生活がポストコロナに向けて大きく動き出すときに、この山形県しか持っていないコンテンツを用いて、生産・流通・販売を増やしていくとともに、人の交流を活発にし、国内そして世界から本県への誘客に向けて、来年度から令和7年までの期間を「果樹王国やまがた」を発信する絶好の機会と捉え、取り組んでいきたい。